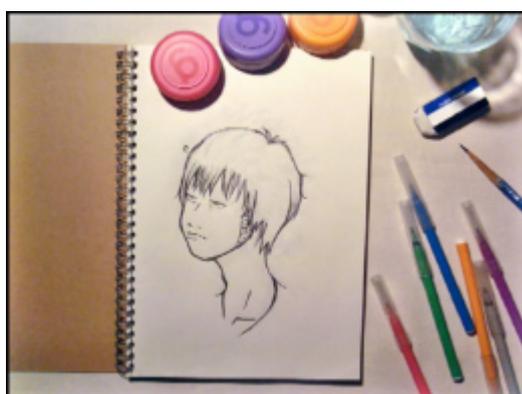


マンドムが学生を対象とするCM映像作品 コンテスト
『GATSBY学生CM大賞2008』大賞 各賞受賞者決定！
大賞はデザイン専攻の専門学校生、韓国の学生も入賞



大賞 ザ・グレイテスト・ギャツビー賞は ムービンググラバー『カミワザ』編
左：作品カット 右：大賞受賞者 鈴木真里奈（専門学校桑沢デザイン研究所）

株式会社マンドム（本社：大阪市、社長執行役員：西村元延）では、当社ブランド『GATSBY（ギャツビー）』ムービンググラバーを題材とし、学生を対象としたCM作品コンテスト『GATSBY学生CM大賞2008』の各賞受賞者を発表・授与する授賞式を11月15日（土）株式会社マンドム大阪本社にて開催いたしました。

『GATSBY学生CM大賞2008』概要

本コンテストでは、日本・韓国・香港にて、5月16日（金）から8月31日（日）の期間に作品を募集したところ、80学校165組200作品（日本166作品、韓国20作品、香港14作品）をご応募いただきました。

9月12日（金）からは、一次審査を通過した30作品をギャツビー公式ホームページ（日本・韓国・香港 PCサイト、日本ケータイサイト）に掲載し、一般の方の投票による一般Web投票（二次審査）を実施。投票総数5,433票より選出された上位15作品が10月29日（水）の最終審査会を経て、大賞・各賞が決定、11月15日（土）の授賞式において、最終審査結果発表とともに各賞の授与を実施しました。

なお、受賞作品の詳細および作品動画につきましてはギャツビー公式ホームページにてご覧いただけます。また、おって授賞式レポートと各審査員の講評を動画及びテキストにて掲載予定です。

< ギャツビー公式ホームページ URL >

日本 <http://www.gatsby.jp/>（PC・ケータイ共通）

韓国 <http://www.gatsby.kr/>

香港 <http://www.gatsby.hk/>

GATSBYデビュー 30周年の節目となるコンテストの目的と意義

「クリエイティブマインドに溢れたアジアの学生にチャンスの場の提供」
そして「参加型コンテンツによるブランドとの絆づくり」

1978年にデビューしたギャツビーは、今年30周年。デビュー以来常にその時代の生活者嗜好に合わせ6回にリニューアルを実施、いつの時代にも新しいグルーミング提案を行い、ヤング層に親しまれてきました。

ターゲットであるヤング層は、秘められた夢や希望の中で「挑戦」や「発表」の場を求めています。彼らに親しまれているギャツビーのスタイリング剤「ムービングラバー」を題材にしたCMコンテストは、プロを目指す学生以外にも非常に取り組みやすく、彼らの生活者に密着した音楽・ファッション・映像を通してクリエイティブ思考を思い存分発揮できる「遊び心に満ちた挑戦と発表の場」であり、これはマンガムから学生への支援・感謝そしてエールでもあります。

また、ギャツビーのコミュニケーションは、Webをハブとして展開しています。商品情報を中心とした一方的なコミュニケーションだけでなく、ブランドを起点とした生活者との双方向のコミュニケーションを通じて生活者同士の話題増幅「知る・遊ぶ・使う・試す」などの体験型・参加型コミュニケーションを重視しています。本コンテストは彼らに親和性の高いPCやモバイルを活用した「参加型イベント」として、生活者とブランドとの絆を深めることがもう一つの目的です。

GATSBY学生CM大賞2008『授賞式 実施概要

日時：11月15日(土) 14時00分～18時00分

場所：株式会社マンガム 大阪本社

審査員：

【選考審査員】

黒田秀樹氏・・・CMディレクター

山崎隆明氏・・・株式会社電通 クリエイティブディレクター / CMプランナー

藤田明久氏・・・株式会社ディー・ツー コミュニケーションズ 代表取締役社長 CEO 兼 CCO

辻中達也氏・・・株式会社電通 クリエイティブディレクター

【特別審査員】

奥村昭夫氏・・・グラフィックデザイナー

GATSBY学生CM大賞2008『総評

商品や効能の見せ方の工夫...から考えられているものが多いせいか、企画の飛躍が足りない気がする。つまり真面目なのである。そんな中で最も丁寧に、時間と労力を費やして、巧みに「見せた」のが大賞の「カミワザ」である。努力賞と言ってもいいであろう。観たことがあるモノの範疇におさまっている作品が多いのが気になる。既成の広告を参考にするのはなく、映画や絵画や音楽...など広告以外のあらゆるアートからインスパイアされた脳ミソが作る、自由な発想の飛躍を期待したい。(黒田秀樹氏コメント)

このコンペは実際に制作物を仕上げなければいけないので、映像に凝りたくなる気持ちはわかるのですが、映像の完成度 = 広告の完成度ではありません。いまの時代、機材が充実しプロ並みの映像やCMっぽいものは誰にでも作れるだけに、商品メッセージの届け方・語り口が大事になってきます。せっかくの自主コンペなので、来年は「企画」といふ作業にもっと執着して、「従来の広告話法を否定する、評価が二分するラディカルな企画」を期待しています。(山崎隆明氏コメント)

GATSBY学生CM大賞2008 受賞作品

大賞 ザ・グレイテスト・ギャツビー賞

作品名： 『カミワザ』編
グループ名： のぞみ
代表者名： 鈴木真里奈 〔日本〕他4名
学校名： 専門学校桑沢デザイン研究所



商品ラインナップをただカッコよさげに紹介するCMが多いなかで、鈴木真里奈さんのカミワザは見せ方にアイデアがあり、きっちりエンターテインメントに包んで商品情報を伝えていました。企画のとっかかりは髪と紙のダジャレですが、アイデアに納得性がある、広告としての完成度もとても高かったです。「まさにカミ技」というタイトルも、企画の所在をはっきりさせていますし、コマ撮りといふ素朴な手法も、好感が持てました。鈴木さん、大賞受賞おめでとうございます。(山崎隆明氏コメント)

ギャツビー 特別審査員賞

作品名： 『MOVING RUBBER (Tシャツ脱ぎ)』編
グループ名： SSP
代表者名： 矢島 晋吾 〔日本〕他1名
学校名： 法政大学



心地よいタイポグラフィの、Tシャツにプリントされたメッセージが活かされ好感が持てる。(奥村昭夫氏コメント)

ギャツビー 演出賞

作品名： 『変化を望むなら』編
グループ名： 日本旅行
代表者名： LEE HAKCHANG 〔韓国〕他2名
学校名： GONG-JU 映像大学



エレベータといふ密室の出来事に仕立てたところが巧みである。カメラアングル、背景との合成も上手くいっている。急停止するエレベータの「揺れ」と「点滅する照明」など、きめ細かい演出が素晴らしい。「MOVING RUBBER効果」の意外な見せ方も良い。タイトルカット~ラストカットで音楽をカットインさせているのが効果的である。つまり前半に音楽がないのが緊張感を生んでいるということである。「G」スイッチが広告の目印として記憶に残る。(黒田秀樹氏コメント)

ギャツピー 企画賞

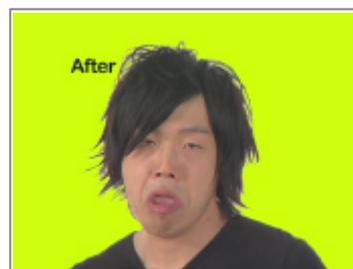
作品名： 『GATSBY×GAME ~走り出す若者~』編
グループ名： 武庫川女子大学
代表者名： 前原 香織 【日本】他1名
学校名： 武庫川女子大学



ゲームと言う設定の発見とそのなかで主人公と商品を魅力的に描けている部分を評価しました。他とは違う語り口を持つ広告は強いですね。あと、脱力系ナレーションの話芸で、かなり点数が上がったと思います。話すリズムもよかったし、セルフモウケを狙いすぎず、ちょうどいい塩梅でした。個人的には後半の実写はなしで、ゲーム画面だけで面白さを追求した方が、よりシンプルでいいかなと思いました。前原さん、企画賞受賞おめでとうございます。(山崎隆明氏コメント)

ギャツピー モバイル賞

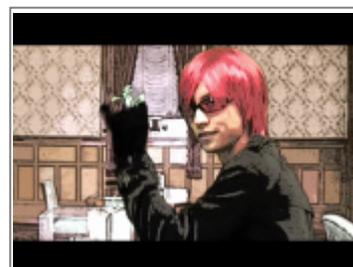
作品名： 『髪型重要』編
代表者名： 青山十詩子 【日本】
学校名： 宝塚造形芸術大学



字が大きく動きも少ないので、モバイルでもブレやノイズが無く、中味がしっかり伝わりました。特に30秒CM作品ながら他の15秒CM並のファイル容量に収まっている点は驚きです。内容も「女性は顔よりも髪型に注目する」という事実を、女性の歓声という表現で男性に響きやすくした表現法は、とても上手ですね。男性の顔の演技も、高い評価を得ました。でも、インパクトが強すぎてTVでのオンエアは…。実は、そんな作風こそが、口コミを誘発しながら広がるモバイル賞に相応しいのです。(藤田明久氏コメント)

ギャツピー 技術賞

作品名： 『怪盗』編
グループ名： IKEYAMA PRODUCTION
代表者名： 池山正倫 【日本】他4名
学校名： 名古屋学芸大学



技術賞はIKEYAMA PRODUCTIONの皆さんによる「怪盗」が選ばれました。「漫画な怪盗感」を徹底して作られたそうですが、全体の完成度、センスの良さやエフェクトの利かせ方、合成の技術など素晴らしい仕上がりと感じました。全体のポップなトーンや髪の色などの表現などムービンググラバーのイメージやブランドイメージに合っていたとおもいます。おめでとうございます。(辻中達也氏コメント)

ギャツビー 主演男優女優賞

作品名： 『転校生』編
グループ名： MORITOUCH
代表者名： 橘 剛史 【日本】他 10名
学校名： 東京フィルムセンタースクールオブアート専門学校



主演女優賞はMORITOUCHの皆さんによる「転校生」が選ばれました。この作品はPCと携帯による投票ではダントツでトップでした。その要因のひとつがこの転校生の女優の方の魅力なのではないかとおもいます。その魅力が理屈ではなく生理的に働きかけているからこそ、国境を越えた表現の強さになったのではないかと審査員一同納得した次第であります。キャスティングに特に力を入れたとのコメントにもありました。おめでとうございます。(辻中達也氏コメント)

各賞受賞作品・受賞者の画像データを下記アドレスにてご提供しております。ご使用の際はご連絡ください。
「GATSBY学生CM大賞2008」画像提供サイト <http://k.gatsby.jp/award/press/>

本件に関する問い合わせ先 株式会社マンダム PR担当

本 社	酢谷 (すたに)	TEL 06-6767-5013	FAX 06-6767-5041
東京オフィス	下川 (しもかわ)	TEL 03-5204-9085	FAX 03-5204-9086